

農業後継者の
確保、育成へ

新規就農セミナー開催

7年度は10人が仲間入り

J Aわかやま紀南地域本部は8月28日、令和7年度「新規就農者セミナー」を中央営農経済センターで開き、7年度の新規就農者10人の門出を祝しました。



和やかに行われた新規就農者と青年部の懇談会

セミナーは農業後継者の確保、育成のためにJ Aが毎年行っているもので、J Aから大炭敦史本部長ら役員、青年部から檜山京平部長と平田卓巳監事、NOSA Iわかやま南部支所の宮脇茂宏支所長が出席。J Aの事業や助成事業、日本農業新聞について紹介したほか、NOSA Iからは収入保険に関する説明がありました。

J Aの大炭本部長は「J Aには青年部という同世代の仲間もいますし、本日ここに同じ新規就農の方が10人集いました。これを機に、ぜひつながりをもってもらえたら」と激励しました。青年部との懇談会では、「ざっくばらんにやろう」

を合言葉に部員らが自身の経験談をユーモアたっぷりに紹介。時には笑いも交えながらのリラックスした雰囲気で行われました。

新規就農者からは「親元就農の予定でしたが、先日親が亡くなり手探り状態なので、また色々と教えてほしい」「野菜は栽培経験がないので、今後頑張りたい」といった声が聞かれました。

今年度の新規就農者は次の皆さんです。(敬称略)

中芳養(松本健太(32)、皿田貴寛(32)、谷口公規(27)▽上芳養(徳田一樹(39)▽三栖(ヒンソン友ジ(34)、古久保雄也(37)、横尾英史(34)▽とんだ(木村忠央(45)▽上富田(熊本貴文(36)、門脇俊樹(24)

外来カミキリに警戒を

研修会で対策呼びかけ

和歌山県主催(田辺市、J Aわかやま共催)の令和7年度クビアカツヤカミキリ対策研修会が8月29日、J Aわかやま紀南地域本部の中央営農経済センターであり、生産者やJ A、行政担当者ら80人が参加しました。

クビアカツヤカミキリは、もも、すもも、うめ、さくらなどバラ科の樹の内部を食い荒らす特定外来生物で、クビ(胸部)が赤いことが特徴。紀南地域本部管内では現在のところ被害が確認されていませんが、成虫の移動距離は年間2〜3



現地圃場でのネット被覆実演に見入る参加者

わたしのおもい

紀南地域本部・
総務部長
山野 光啓

令和の米騒動について

執筆時点は遅場地帯での米の収穫時期であり、新米が待ち遠しいところですが、最近のいわゆる令和の米騒動について考えてみます。

農産物の価格は短期的には市場における需要と供給の関係によって決まるため、必ずしも農業者の生産費を補うとは限りません。しかしながら、長期的にみると生産コストが上昇している中で生産費に見合わない価格が続くと農業者は生産継続が難しくなり、需要に対して十分な供給ができなくなります。

食糧安全保障の観点から輸入を考慮せず、国内生産で必要な供給量を確保しようとする生産費を補う価格形成は生産者だけでなく消費者にとっても重要となります。

海外では食糧の安定供給

を失い、国難に陥った事例があります。2000年代のメキシコでは、主食のトウモロコシの多くをアメリカに依存していましたが、アメリカのバイオエタノール増産政策が大々的に開始したことで、トウモロコシは次々に燃料製造に使用され、価格が高騰しました。

その結果、メキシコ人は主食への安定的なアクセスを失うことになりました。この時には数万人規模のデモがおき、政情不安を引き起こしました。

日本においては人口減少や米の消費量低下等の環境にあります。世界的には人口増加や気候変動、戦争など情勢が不安定な状況にある中、今後も安定的に今までのような価格で農産物が輸入できることへの確実性が低下しているように感じます。

カロリーベースでの自国生産が30%台の状況では世界のどこかで起こったことが対岸の火事とはならないのではないかと危惧します。消費者に理解を得ながら農業者が継続的に営農できる所得を確保できるよう、広報していかねばならないと考えています。

組合員の皆さまへ

農産物受託販売
手数料率等の変更
について

J Aわかやまは、令和7年10月1日に和歌山県農業協同組合連合会(以下、県農)を包括承継するにあたり、現在組合員の皆さまにご負担いただいております「県農手数料」を下記のとおり変更させていただきます。

① 農産物受託販売手数料率の改正
(令和7年10月1日市場売立分から対象)

販売受託品	改正前	改正後
果 実	0.8%	0.7%
野 菜	1.0%	0.9%
花 き	1.0%	0.9%

※市場売上金(税抜)に対して

② 精算書への表記の変更

改正前⇒「県農手数料」

改正後⇒「共通管理負担金」

新体制スタート
部会組織が役員改選

地域運営委員長の
谷本 昌平さん



生販委員長の
小谷 真一さん

J Aわかやま紀南地域本部の生産販売委員会・生販委員会と作物別部会、地域運営委員会がこのたび、新

キと飛翔力が高く、県内でも被害地域が急速に拡大していることから、県では「フラスを発見した際は必ず最寄りの振興局、J A、市町

村に通報してほしい」と広く警戒を呼び掛けています。

成虫は5月下旬から8月の昼間に幹で見つけやす

体制となりました。生産販売委員会の任期は令和9年8月末までの2カ年、地域運営委員会の任期は令和10年3月末までの3カ年です。

今期の各組織の役員は、次の皆さまです。(敬称略)

生産販売委員会連絡協議会

委員長 小谷真一(稲成)▽副委員長 谷口光宏(秋津川)、福田淳(上富田)、木村光洋(すさみ)▽委員 岩間久典(秋津)、野田和宏(万呂)、新谷圭司(中芳養)、法

く、オレンジ色や褐色のミシチ状の「フラス」は3月下旬から11月に排出を確認しやすいといい、県果樹試験場うめ研究所の裏垣翔野

研究員は「被害の拡大防止には早期発見が重要」と、この時期の園地の見回りを特に強化するよう呼び掛けました。

対策の一つとして産卵や脱出を防止するネットの被覆も効果的とし、裏垣研究員による現地圃場での被覆実演もありました。

作物別部会

忍岳史(上芳養)、谷本雅保(上秋津)、那須一令(三栖)、那須宣英(長野)、榎山和也(新庄)、宮崎通春(田辺)、鴨居秀和(とんだ)、高松克行(なかへち)、栗山圭治(日置)、辻本圭次(串本)

梅部会

本部部長 中田善久(秋津)▽本部副部長 松本栄二(三栖)▽地区部長 西和彦(稲成)、片井弘(万呂)、廣田明彦(中芳養)、行森照明(上芳養)、藤山幸輝(秋津川)、中山昌尚(上秋津)、竹内健悟(長野)、榎山京平(新庄)、尾鼻孝則(田辺)、高垣啓(とんだ)、中道雄大(上富田)、長嶺博司(なかへち)、須本修平(日置)、村田修(すさみ)、芝崎憲年(串本)

梅千分科会

本部分科会長 堀口敦司(三栖)▽本部副分科会長 坂本和也(秋津川)▽地区分科会長 宮崎

花き部会

本部部長 赤埴友則(串本)▽本部副部長 森本浩司(田辺)▽地区部長 鈴木章生(秋津)、

すもも部会

本部部長 泉孝志(上秋津)▽本部副部長 片根充喬(万呂)▽地区部長 田中武志(稲成)、高畑智矢(三栖)、和田真穂(長野)、榎山和昭(新庄)、森和也(上富田)

みかん部会

本部部長 井潤正晴(上富田)▽本部副部長 米田壮伺(稲成)▽晚柑分科会長 津本浩志(上秋津)▽地区副会長 鈴木一範(秋津)、小谷大蔵(万呂)、皿田竜一(中芳養)、村上達人(上芳養)、泉智志男(上秋津)、丸山清司(三栖)、上垣善則(長野)、谷本和哉(新庄)、鳥山晃弘(田辺)

地域運営委員会

(カッコ内は役職)田辺新万 池永一雄 芳養 坂本真一 稲成 平田卓巳 秋津 鈴木晶博 委員長 万呂 桑原天久 中芳養 榎本功 上芳養 岡本宇也 秋津川 山本晃一 上秋津 平尾重雄 三栖 桶本伊知郎 長野 大久保宗一 新庄 谷口正史 白浜 堅田チヤ子 田辺 鈴木一範 朝来 山田隆士 生馬 田中達也 岩田 岡市ノ瀬 谷本憲司 大塔 笠松博之 なかへち 森隆男(副委員長) 日置 須本修平 市鹿野 清水哲治 すすみ 賀城剛典 串本 谷本昌平(委員長)

紀南地域版

11月の農作業



ミカン

◆腐敗防止対策

果実の熟度の進行にともない減酸および果皮の老化、浮皮が発生しやすくなる。そのため、収穫時期が遅れると樹上でも果実が腐敗しやすくなる。また、高温時（20度以上）の降雨によって園内が多湿になることでさらに腐敗しやすい状態となる。対策として以下①～⑤に注意する。

- ①適期収穫を心掛け、採果時には果実を丁寧に扱い、ハサミ傷をつけないように注意する。
- ②残った果梗枝がコンテナ内で他の果実に傷をつけないように二度切りなどを行う。
- ③濡れた果実の収穫は傷みを助長する恐れがあるため極力控える。
- ④完着・木熟出荷では、果皮を少し乾燥させる予措を行い、果実重量の3%程度を減量させる（風通しの良い場所ですく5日程度おく）。

⑤薬剤防除を行う。JAへの出荷には出荷要領に記載のある腐敗防止薬剤を必ず散布する。なお、散布時期は収穫前7日前後が望ましい。

◆秋肥

収穫完了の見込みがつくと秋肥を施用する。施用量は樹勢に応じて加減して行うが、地温が12度以下にならない11月上旬までに施用することで、根や葉に養分が多く蓄積される。樹体内に養分が蓄積されると、冬期の耐寒力が向上し、翌春の開花・結実が促進される。施用時期が遅れるほど吸収量が低下するので注意する。施用後、降雨がなければかん水を行う。

◆マルチ被覆園の樹勢回復

マルチ被覆等によって長期間水分ストレスをかけたミカン園では、乾燥によって根の伸長量や養分吸収量が低下しているため、収穫後速やかに樹勢回復させる必要がある。樹勢回復には、葉面散布としてチッ素主体の液肥（尿素またはあざやか500倍）を年内に7～10日間隔で3回以上散布する。乾燥ストレスが強い場合はかん水を行う。

◆ジベレリン液剤の散布

来年度の結実対策として、着花性の高い品種や着花過多樹・苗木や接ぎ木樹の花芽抑制と新梢確保を目的にジベレリン液剤（2.5 ppm・11月～1月収穫終了後・1回）にマシン油乳剤（60～80倍）、または展着剤スカッシュ（1000倍）を加用する。ジベレリンは、葉からの移行性がない

ため、今年出芽した新梢部を中心に散布する。

◆中晩柑類の管理

○秋肥

秋肥は翌春の発芽・開花準備、耐寒性の向上を目的に施用する。施用量は栽培暦を参考に、樹勢や収穫量・品種によって加減する。

○落果防止対策

中晩柑の後期落果とへた落ち防止対策には、マデックEW（200～300倍）の薬剤散布が有効である。使用方法は栽培暦を参考にする。
（芳養谷支店営農経済・三谷秀彦）

梅

◆苗木の植栽

苗木の植付けは11月～2月が適期であり、遅くなると新梢の発芽が遅れ、初期生育が悪くなる。深植えにせず接木部が見えるようにし、強風で揺れて細根が切れないよう支柱で固定する。植付け後は十分かん水し、根と土を密着させる。晴天が続けばその都度かん水し、堆肥を施用して乾燥防止に努める。

◆整枝・剪定

樹勢の維持、結実の安定、秀品率の向上、作業性の向上等を目的に行う。貯蔵養分の無駄使いを避けるためにも年内に終えるのが理想だが、遅れた場合でも必ず取り組む。

○幼木の剪定

幼木は、主枝・亜主枝の確立によ

る骨格づくりを目的に行う。主枝は2～3本を立て、角度は60度を目安に設定し、最初から寝かさないように心掛ける。

亜主枝は主枝の分岐点から1/3以上離して設定し、順次間隔を1/3以上離して交互に設定するのが基本となる。

主枝・亜主枝の先端は1本にし、2分の1～3分の1程度を残して切り返す。

○成木の剪定

一般的に樹勢の強い木は、間引き剪定を主体に結果枝を多く残し、樹勢が低下している木は、切り返しを多くして結果層を制限し樹勢を回復させる必要がある。基本的な剪定手順は次の通りである。

- ①木全体を見て主枝・亜主枝の配置を決める。
- ②主枝の先端から順番に不要な枝を切除し、主枝の先端は1本にして強めに切り返す。
- ③それぞれの枝は先端から剪定する。先端から見て三角形になるように配置し、不要な徒長枝、内向枝、枯れ枝を切除する。配置した枝は車枝にならないよう注意する。
- ④亜主枝・側枝の先端は果実の重みで少しづつ下がってくるため、上向き枝まで切り戻し、弱めに切り返す。「南高」では緑枝を切り返さず、混み合っている場合のみ間引く。
- ⑤結果枝が混み合っている場合は適度に間引く。剪定後の樹姿は全体的

ミカンの季節です

メディア対応で
アピール

ミカンのシーズンに入った紀南の“旬”を届けようと9月16日、極早生ミカン「YN26」を収穫する上富田町岡の前田純志さん園地に多くの報道陣が訪れました。前田さんによる収穫風景は、新聞・ラジオ・テレビ等で広く報道されました。

水
稲

水田で生産された稲わらは、地力の維持に重要であるため、鋤き混み

が短く、葉色が薄くなり落葉が早い傾向にある。判別方法として、本病に感染した木は、地上部から5〜10センチ程度にある根の形成層に白い菌糸が確認できる。症状が重い場合は改植する方が良いため、症状が軽いうちに防除することが重要である。
(品目別専門指導員・小谷周平)

に少し持ち上がるように仕上げる。

◆病害虫防除

○かいよう病

病原細菌は新梢内で潜伏感染して越冬し、翌年の発生源となるため、10月に薬剤散布できていない圃場では11月に行う。

○白紋羽病

感染した木は樹勢が低下し、新梢が短く、葉色が薄くなり落葉が早い傾向にある。判別方法として、本病に感染した木は、地上部から5〜10センチ程度にある根の形成層に白い菌糸が確認できる。症状が重い場合は改植する方が良いため、症状が軽いうちに防除することが重要である。

野
菜

は、年内に行っておく。

腐熟促進のため、石灰窒素を10リットルあたり20キロ施用する。
(富田川営農経済センター・尾野敏之)

◆春採りやすい

○つるの誘引

土中に埋める部分(30〜50センチ)を考慮し、230センチの支柱を2メートル間隔で立てる。支柱に綱目15〜18センチ位のネットを張り、つるが延び始めたら、垂れないように20〜30センチおきにテープなどを張り誘引していく。

◆レタス

○トンネル被覆

気温が10度以下の条件下になるとトンネル被覆を行う。被覆が遅れると、肥大が抑制されるため、早めの被覆を心掛ける。また、トンネル内が高湿になりすぎないように、裾の開け閉めを適宜行う。

○かん水

乾燥はレタス異常球の原因となるため、結球前までは畝間のかん水を充分に行う。ただし、結球期以降のかん水は控える。

○病害虫防除

・軟腐病・斑点細菌病

病原菌の植物への侵入の多くは、傷口から水と一緒に侵入する。このため排水路の整備を丁寧に行っておくとともに、降雨前後に薬剤による予防散布も行う。

・ヨトウムシ

ヨトウムシ類などのリン翅目害虫の老齢幼虫は、薬剤への抵抗性が強い。そのため、早期発見による若齢幼虫段階での防除が大切である。

使用薬剤は部会栽培指針、または営農経済担当者に確認する。

◆ブロッコリー

花蕾が見え出した頃、花蕾の肥大を目的に追肥(NK2号10リットル当たり40キロ)を目安に施用する。

無マルチで栽培しているブロッコリーは、土寄せ・除草作業を同時に行っておく。

◆一寸そらまめ

○整枝

本葉が、4〜5枚に展開した頃に、始めに出た枝の先端を摘み取る。その後、側枝が20センチ程度に伸びた頃、強い枝4〜5本に整理し、主枝を決定する。

○ネット張り・誘引

支柱を3メートル間隔で立て、地上部は1メートル程度の高さを確保する。支柱にキュウリネットを張り、主枝をネットに誘引する。
(富田川営農経済センター・尾野敏之)

花
き

◆露地花き(葉ボタン)

○葉ボタンの色戻り

秋に気温が高すぎると発色部が色戻りすることがある。なお、気温が15〜20度より下がっても色が着かな

い場合は、チッ素肥料の与えすぎが原因と考えられるため、追肥は基本的に行わない。どうしても追肥が必要な場合は液肥で行う。

◆施設花き

○病害虫防除

・灰色かび病

低温多湿条件で発生が多くなり、花卉や株元の枯葉に灰色のカビを形成する。主な発生時期は1月から3月の期間だが、この時期から警戒すべき病気である。

多湿条件で発生しやすいため、日中は換気に留意する。一度発生すると病気の拡大を抑えることが難しいため、予防に心掛ける。感染したのちに枯れた株は、施設外に持ち出して適切に処分する。

防除薬剤は、アフエットフロアブル(200倍・発病初期・3回以内)、またはゲッター水和剤(100倍・5回以内)、またはフルピカフロアブル(200〜300倍・発病初期・5回以内)、などをローテーションで防除する。

・菌核病

灰色かび病と同様に低温多湿条件での発生が多い。茎や葉に白色綿毛状のカビが密生し、黒い菌核を形成する。防除は、灰色かび病と同一薬剤で予防に努める。

(中央営農経済センター・榎本雄司)

※みかん、中晩柑、梅、スモモ、水稲の防除薬剤や施肥肥料は、旧JJA紀南令和7年栽培暦を確認ください。



准組合員に聞く「生の声」

5支店で役職員と懇談会

准組合員の意見や要望をJA運営に反映させようと、紀南地域本部では9月中旬、5支店で准組合員と役職員との懇談会を開きました。合わせて25人の准組合員が参加し、JAからは組織体制や事業・活動内容を説明しました。

紀南地域本部ではAコープ利用者などの組合員加入

促進運動に取り組んでおり、令和7年3月31日現在で組合員総数5万2388人のうち83・7%を准組合員が占めています。懇談会は、農業・JAに対する理解の促進と運営参画を図ろうと、少人数の車座形式で行いました。

今年度は、中央・上秋津・とんだ・口熊野・すさみの5支店に大炭敦史本部長らが分担して出席。支店長なども含め准組合員と直接対話しました。

役職員と准組合員による懇談会(9月18日、口熊野支店で)▶
准組合員からは「他の銀行で集金業務を取りやめたときでも、JAだけは集金に来てくれた」「ケガをしたときに、共済商品の『安心倶楽部』ですぐ



金融窓口 営業時間変更のお知らせ

2025/11/4(火)より、一部支店の窓口営業時間が次のとおり変更となります。

変更前 **8:30～15:00**

変更後 **9:00～15:00**

●対象支店●

中央支店 三栖支店
芳養谷支店 新庄支店
上秋津支店 以上、5支店

ATM、購買店舗の営業時間は従来どおりです。
何卒ご理解の程よろしくお願いいたします。

10/17 JA総合相談会

- 相談会場 紀南地域本部
- 相談時間 9時～12時
- 問合せ先 金融部(☎0739-23-3516)

職員異動

10月1日付

氏名	新部署	旧部署
熊代 友樹	新庄支店	旧部署
松本 美佑	購買部購買課	白浜支店
蒲田 佳典	店舗部Aコープ紀南A P I A(副店長)	ながみね地域本部 しもつ営業生活センター
谷本 充弘	店舗部Aコープ紀南デリスいな(店長)	店舗部Aコープ紀南デリスいな(店長)
井上 貴幸	店舗部Aコープ紀南デリスいな(副店長)	店舗部Aコープ紀南デリスいな(副店長)
出羽 淳幸	店舗部Aコープ紀南あぜみち	店舗部Aコープ紀南あぜみち
部門専門職員異動		
井上 稔子	新部署	旧部署
勸代 恵里	上秋津支店	鮎川支店
上口 大造	三栖支店	朝来支店
	店舗部Aコープ紀南熊野古道なへち	店舗部Aコープ紀南A P I A

依願退職

9月30日付

氏名	部署
山川 真佐美	上秋津支店
田中 稔也	三栖支店(再雇用嘱託職員)

対応してくれてありがたかった」といった感謝の声のほか、「金融移動店舗舗車『和(なごみ)』が意外と知られておらず、アピール不足」といった声や、「親子で参加できるイベントは、低年齢が対象のイメージ。子どもの参加年齢を引き上げたほうが楽しみ方も変わるのでは」との提案が聞かれました。

フードドライブを実施

食品など478点を寄贈

社会福祉活動への貢献と「食品ロス」



フードバンク和歌山に寄贈する大炭本部長(右)

削減に向け、紀南地域本部では9月4・5日の2日間、女性会の協力でフ

ードドライブを実施しました。フードドライブとは、家庭で食べきれない食べ物を持ち寄り、地域の福祉団体や子ども食堂などに寄贈する活動のことです。

紀南地域本部と営農経済本部、各支店・事業所などで協力を呼び掛けたところ、菓子やレトルト食品、缶詰など478点が集まり、大炭敦史本部長が9月25日、NPO法人フードバンク和歌山に手渡しました。

あいづクラブが優勝

JA共済旗学童野球大会

田辺・西牟婁学童協議会主催(JAわかやま紀南地域本部後援)の「第1回JA共済旗学童軟式野球・西牟婁支部大会」が9月15日・20日・21日・23日・28日の5日間、神島台運動場であり、今年は12チームが参加。トーナメント

開会式では、生馬クラブの吉田壘主将が選手宣誓し、全チームの入場行進を審査する「ベスト行進賞」に白浜クラブが選ばれました。



JA共済の地域貢献活動



▶優勝したあいづクラブ

ふれあい広場



セカンド
ライフ

田辺市中芳養

まつもと けんた
松本 健太さん

「親が元気なうちに」と就農決意 過程・結果と時代のトレンド追求を

12年ほど勤めた職場を退職し、今年の1月に新規就農しました。勤務年数が長くなったことで迷いも正直ありましたが、「いずれ…、という思いはあったので、「教わるなら親が元気なうちに」と決断し帰郷しました。

栽培品目は梅とミカンが中心で、このほかカスミソウも少し育てています。天候に左右されるなど農業の難しさを感じていますが、「自然任せのものだから仕方ない」と諦めるのではなく、「なぜこうなったのか」「どうすればよくなるのか」を突き詰めていくことが重要だと考えています。

まだまだ親に教わりながらの毎日ですが、ゆくゆくは省力化も検討しながら、時代のトレンドに乗り遅れないようアンテナを張り続けたいと思います。

今月の
きなん産地人

生産者
紹介

白浜町中嶋

ふたかぶ あきお
二株 輝王さん

農業は良くも悪くも自分次第

専業農家となり5年目、現在はケイトウ、ピーマン、シソをメインにさまざまな作物を栽培しています。

モットーは「高品質なモノづくり」。品質にこだわり出荷することが必ず評価につながります。分からないことができると、農家仲間やJAの指導員などにいつも聞いて回っています。

思うようにできた年は未だありませんが、農業は良くも悪くも自分次第。時間の融通がきき、収入面でもやり方次第で跳ね返りの大きさを実感できるところが最大の魅力です。若い人たちに「農業っていいかも」と思ってもらえる存在になれるよう、頑張ります。



すくすく
Memory

上富田町岡

さかもと かずまさ
坂本 一将さん

あすか
明日香さん

りょうせい
棕星くん(2歳)

ゆい
唯ちゃん(1カ月)

“マツケン”こと松平健さんに夢中 「マツケンサンバ」も歌えるよ♪

“マツケン”こと松平健さんに夢中という棕星くん。今の楽しみは「暴れん坊将軍」を見ることで、おうちの木馬にまたがって、テレビの向こうの将軍さまと一緒にいつも並走してるんだって。

歌うことも大好きで、曲はもちろん「マツケンサンバ」！お父さんとマイク片手に一緒に歌ったり、踊ったりしてるんだ♪

生まれたばかりの唯ちゃんがかわいくて、おむつ替えを手伝ったり、“お兄ちゃん”を楽しんでいるよ。

／＼／
ご家族から一言 明るく元気で健康に、思いやりをもった優しい子に育ってね。

地域本部の

JA 職員です



熊野支店 金融窓口

おがわ たかひろ
小川 貴弘さん

ここ数年、趣味の自転車で全く遠出していないので、久しぶりに「しまなみ海道」を友人と走りにいきたいです。

鮎川支店 金融窓口

はまもと あやか
濱本 采佳さん

趣味はエレクトーン演奏で、最近ではボーカロイド曲を練習中。n-bunaさんの「夜明けと蜚」は弾けるようになりました。十八番は「ジッパ・ディ・ドゥ・ダー」です。

